

学校だより 第18号



心豊かで 確かな学力をもち 心身ともに健やかな子どもの育成

令和6年12月2日 津市立榊原小学校



師走に入り、行事の多かった2学期も残りわずかとなりました。学期末の個別懇談会では、担任から児童の様子をお伝えします。学校全体としても、2学期の授業や行事等の取組をふりかえり、反省点は改善して3学期を迎えたいと思っています。

「誰か」のこと じゃない。

人権週間

12月4日~10日

12月10日は「人権デー」で、12/4(水)~10(火)までが第76回「人権週間」です。

児童会では、11月のいじめ防止強化月間に合わせて、「ピンクシャツ運動」に取り組みました。児童手づくりのピンクのミサンガをつけて「いじめをなくす」気持ちを表しています。

また、12月12日(木)には、久居西中学校区「子ども人権フォーラム」が行われます。

<ピンクシャツデーのはじまり>

舞台は2007年カナダのハイスクールです。ある登校日に9年生の男子生徒(日本では中学3年生)が、ピンク色のシャツを着て登校したことをからかわれ、さらに暴行を受け、耐えきれずに帰宅してしまいました。

それを聞いた12年生(日本では高校3年生)の男子生徒2人が、いじめに反対するために何か行動しようと考えました。その日の放課後、2人はディスカウントショップへ行き、ピンクのシャツやタンクトップを大量に買い込み、その夜、クラスメートたちにメール等で、明日、一緒に学校でピンクシャツを着ようと呼びかけました。

翌朝、2人が校門でピンクシャツを配り始めると、思いもよらない光景が目に見えてきました。

それは、すでにピンクシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクシャツを用意できなかった生徒は、リボンなど、ピンク色の小物を身につけて登校してきました。

2人の気持ちは一夜のうちに広まり、2人が呼びかけた人数よりはるかに多くの生徒たちが、ピンクシャツやピンク色のものを身につけて登校し、その日、学校はピンク色に染まったそうです。

数日後、いじめられた生徒はピンク色のポロシャツを再び着て登校してきました。

この行動がきっかけとなり、現在カナダでは毎年2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、賛同者がピンクシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを送っています。

SAKURA (咲楽) 化粧水作り体験

11月20日(水) 3年生



今年も、SAKURA (咲楽) さんにお招きいただき、榊原の温泉水を使って、化粧水をつくる体験をさせていただきました。店内には、温泉水を使った商品がずらりと並んでいました。



奥の部屋には、材料を準備していただいていたあり、子どもたちは、慎重に計量し、順番に混ぜて、最後はかわいいシールなどで自分だけのボトルに仕上げ、大事にもちかえりました。



榊原小学校のホームページ (二次元コード)

PC画面の表示でご覧いただくには、左下のアイコンをクリック→
<http://ednet.res-edu.ed.jp/s-sakakibara/>



図書・掲示委員会 スタンプラリーと読み聞かせ

11月7日(木) 21日(木)

読書の楽しさを味わい、読書好きのばらっこを増やそうと図書・掲示委員会が取り組みました。練習を積んだ読み聞かせに、引き込まれました。スタンプラリーの賞品として手作りのしおりのプレゼントもありました。



榊原温泉郵便局見学

11月25日(月) 1・2年生



1・2年生は、まち探検で、榊原温泉郵便局に行きました。中井剛局長さんは、登校時刻に合わせて外のお掃除をされていて、挨拶を交わすので、子どもたちにも顔馴染み。「どうして郵便局の仕事をしたと思ったんですか？」子どもたちの質問に、丁寧に答えていただきました。郵便、貯金、保険のお仕事をする中で、地域の方が集い、交流が生まれるようにあたたかい工夫や心配りがされています。榊原温泉郵便局は開局100周年。懐かしい写真も貼られていました。

榊原市民館見学

11月28日(木) 3・4年生



地域にある榊原市民館について、田中秀和館長さんから、「地域の人が楽しく生活できるように、集まって交流したり、人権の大切さを考えたりするところです。」と、わかりやすく説明していただきました。質問にも答えていただき、健康体操の講座のみなさんと一緒に、楽しいひとときを過ごしました。

授業研究会

11月29日(金) 1年生



公開授業研究会で、1年生の算数科の授業を他校の先生方にも見ていただきました。

本校は、『課題解決を通して、主体的に学ぶ楽しさを味わう授業の研究 ～少人数学級における学力の定着を目指して～』をテーマに職員研修を進めています。参加した先生方からは、子どもたちが楽しく学習に向かう姿や、学んだことが定着しているところなどを評価していただきました。教えてもらうのを待つのではなく、自分で学ぶ力をつけるように、今後も“愛のある不親切”を心がけ、授業改善に取り組みます。